

Q 毎日通学する必要はありますか？

A 履修する科目にもよりますが、毎日授業があるわけではありません。また、Zoom 等を使った遠隔授業も積極的に行っていますので、通学の負担を少なくすることができます。

Q 長期履修制度のメリットを教えてください。

A 修士課程なら2年分の学費で3、4年かけて、博士後期課程なら3年分の学費で4、5、6年かけて履修することができます。学費の負担を抑えて、長期間にわたって学べることがメリットです。詳しくは教育推進課へお問い合わせください。

Q 出願書類の「研究計画書」の書き方が分かりません。

A 各専攻とも出願前に、研究計画等について担当教員との事前面談を受けていただきます。事前面談のお申し込みは、担当事務へメールでご連絡ください。
✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp

Q 入学前に単位を取ることは可能でしょうか。

A 本学には「科目等履修生制度」があり、この制度を利用して修得した単位は、入学後に修了の要件となる単位として認めることができます。前期は2月頃、後期は8月頃に募集しています。

支援制度

長期履修制度

看護福祉学研究科／健康生活科学研究科

職業を有している等の事情により、2年（後期課程は3年）では履修が困難な場合、2年（同3年）分の授業料で3年または4年（同4年、5年または6年）かけて履修することができます。

ティーチング・アシスタント

看護福祉学研究科

学部 の講義や演習等において、教育補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

フィールドワーク研修旅費助成

看護福祉学研究科

授業の一環として、実地調査、情報収集等の研究活動を行う場合において、その研修に要する旅費を助成します。

教育訓練給付制度

看護福祉学研究科／健康生活科学研究科

一定の条件（雇用保険上）を満たし修了した院生に対し、授業料等の2割（上限10万円）に相当する額をハローワークから支給する教育訓練給付制度の講座に指定されています。
※令和7年4月現在、指定を受けています。ただし、今後変更が生じる場合があります。

リサーチ・アシスタント

健康生活科学研究科

教員が行う研究プロジェクト等において、研究補助業務を行う院生に対して報償費を支給します。

学会参加旅費助成

健康生活科学研究科

研究領域の最新情報の把握と自らの研究成果発表を行う場合において、その学会参加に要する旅費を助成します。

入学試験概要

[募集人員]

研究科	課程	専攻	入学定員	学内推薦	一般	社会人	外国人留学生
看護福祉学研究科	修士	看護学	10名	—	10名程度	若干名	若干名
		社会福祉学	6名	—	6名程度	若干名	若干名
健康生活科学研究科	博士後期	健康生活科学	3名	—	3名		

[試験科目]

研究科	課程	募集区分	英語	専門科目	口述試験	小論文
看護福祉学研究科	修士	一般	○	○	○	
		社会人			○	○
		外国人留学生			○	○
健康生活科学研究科		博士後期	○		○	

試験日程

[第1次募集]

出願期間	令和7年7月24日(木)～7月31日(木)
試験日	令和7年8月31日(日)
合格発表	令和7年9月8日(月)

[第2次募集]

出願期間	令和7年12月19日(金)～12月26日(金)
試験日	令和8年2月1日(日)
合格発表	令和8年2月9日(月)

入試に関する
お問合せ教育・学生支援部
教育推進課

〒910-1195
福井県永平寺町松岡兼定島 4-1-1
TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6012
E-mail : kyouiku@fpu.ac.jp
URL https://www.fpu.ac.jp/

大学院入試に関する詳細はウェブサイトをご確認ください。

[永平寺キャンパス]

福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1

〈バス〉
京福バス福井駅西口バスターミナル大学病院線
「県立大学」下車（所要時間約40分）
〈乗用車〉
福井駅より約20分
北陸自動車道 福井北ICより約10分

CAMPUS GUIDE
2026

看護福祉学研究科

看護学専攻 / 社会福祉学専攻 (修士課程)
Graduate School of Nursing and Social Welfare Sciences

健康生活科学研究科

健康生活科学専攻 (博士後期課程)
Graduate School of Health and Human Life Sciences

公立大学法人
福井県立大学
Fukui Prefectural University



福井県立大学大学院



看護学専攻

Major in Nursing Science

詳細は
ホームページへ

質の高い包括的なケアを目指して

- 看護学専攻は看護マネジメント学、健康科学・基礎看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、地域・在宅看護学、公衆衛生看護学の9領域を設けています。
- 看護マネジメント学領域は日本看護協会の認定看護管理者審査要件を満たしています。
- 養護教諭一種免許状を有している人は、「養護教諭専修免許状」を取得できます。

取得できる学位 ▶ 修士（看護学）

■教育目標

- ▶環境の変化に伴い多様化するヘルスケアニーズに応じて発展的・創造的に看護を実践する能力を養成する。
- ▶人間としての尊厳と権利を尊重した倫理観に基づく質の高い看護を提供する能力を養成する。
- ▶看護学発展の長期的展望に立ち、看護実践上の問題や課題の解決に向けた研究能力を養成する。
- ▶保健・医療・福祉分野の専門職や他職種と連携・協働し、リーダーシップを発揮する能力を養成する。
- ▶ヘルスケアシステムの変革に対応し、組織を管理運営できるマネジメント能力を養成する。

■カリキュラム

▷ 共通科目

精神健康学特論	看護・福祉研究方法論
環境保健学特論	コミュニケーション特論

▷ 専攻科目

看護マネジメント学 看護マネジメント学特論 看護マネジメント学演習 看護マネジメント学特別研究	成人看護学 成人看護学特論 成人看護学演習 成人看護学特別研究	母性看護学 母性看護学特論 母性看護学演習 母性看護学特別研究	精神看護学 精神看護学特論 精神看護学演習 精神看護学特別研究	公衆衛生看護学 公衆衛生看護学特論 公衆衛生看護学演習 公衆衛生看護学特別研究
健康科学・基礎看護学 基礎看護学特論 基礎看護学演習 基礎看護学特別研究	老年看護学 老年看護学特論 老年看護学演習 老年看護学特別研究	小児看護学 小児看護学特論 小児看護学演習 小児看護学特別研究	地域・在宅看護学 地域・在宅看護学特論 地域・在宅看護学演習 地域・在宅看護学特別研究	その他 成人・老年保健学特論 成人・老年保健学演習 養護概説特論 養護概説演習

▷ 経済・経営学研究科の授業科目

経済理論	ワークショップ(地方行政論)	人的資源管理特論
日本経済史特論	現代企業論	

※ 2025 年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。

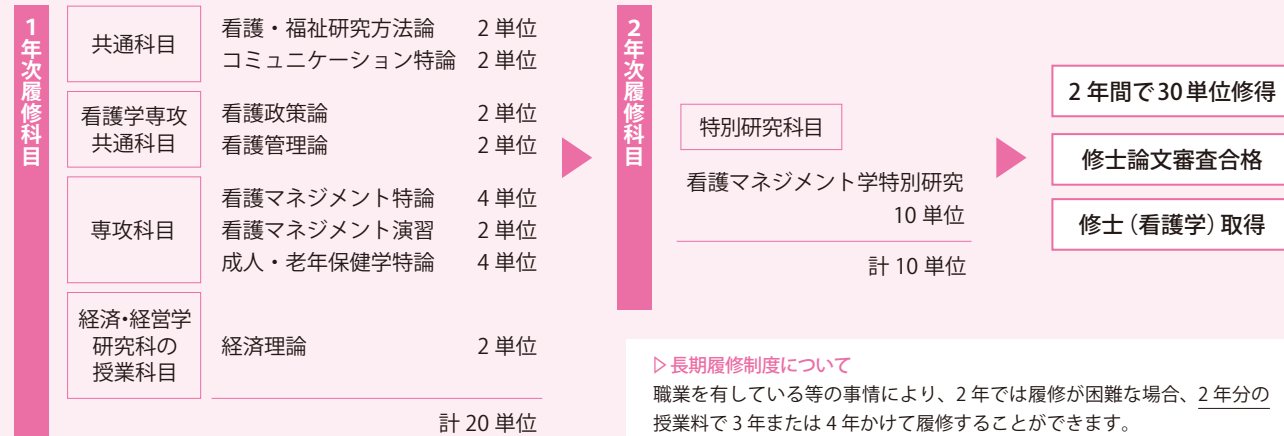
受験を検討されている方への
お願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

看護学専攻の履修モデル ※看護マネジメント学領域を選択した場合



修士論文タイトル（2019 年度～ 2024 年度）

- 急性期病棟で働く看護師の難聴高齢者へのケアにおける困難と工夫
- 看護師長のレジリエンスとコミュニケーションスキルとの関連
- 看護師経験を有する地域包括支援センターの看護職が行う一人暮らしの慢性心不全をもつ認知症高齢者への支援
- コロナ禍に入職した新人看護師のストレス対処力とリアリティショックとの関連
- 中堅看護師が副看護師長という新たな役割に向かう心理のプロセス
- 在宅血液透析助者のストレス認知的評価とストレス反応
- 医療的ケアの特技獲得後に看護介入を受けて生じた母親の認識
- 中小規模病院における医師・看護師間の連携と退院支援実践との関連
- PNS において新人看護師に関わる看護師の教育的役割遂行とバーンアウトとの関連
- 病棟看護師がとらえた師長の支援内容と組織風土との関連
- 臨床における看護職のパワーハラスメントと職務満足との関連
- 看護部長が看護師長への支援を通して自己成長を実感した対応の内容
- 介護保険施設入所高齢者の看取り期の判断を家族と共有するうえで看護師が抱える難しさとその背景に関する研究
- 就労妊婦の働きやすさに関連する要因

看護学専攻

研究紹介



金粕 仁美 准教授

周産期のうつ症状や
ボンディング障害の早期発見に向けて

私は、主に周産期の女性を対象とした量的研究を行っています。今までの研究では、周産期の女性の抑うつ症状やボンディング障害のリスク要因などについて調査してきました。ボンディング障害とは、養育者から乳幼児への情緒的絆ー肯定的感情が欠如した状態の持続により、乳幼児の養育に必要な授乳や抱っこなどといったケアが困難となることを指します。虐待的な育児との関連も示唆されており、児童虐待予防の観点からもボンディング障害を予防・早期発見することは重要と言えます。

現在行っている研究においては、エジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）などといった自記式質問紙だけでなく、血液や唾液、毛髪サンプルなどからコルチゾールやオキシトシンなどといった客観的な指標も測定しています。これらの指標を用いることにより、周産期のうつ症状やボンディング障害の早期発見に活かせるのではないかと考えています。

看護学専攻

在学生インタビュー



AHALAQI さん

研究を通して
人々の健康長寿に貢献したい

「自分の生まれ育った中国以外の国の生活習慣や食生活を学び、得られた知識や技術を活用して自国の人々の健康長寿にも貢献したい」と考え、福井県立大学に進学しました。大学院では、福井県産の食材の機能性や健康増進効果を、実験動物やヒトで研究しています。実験で日本の食素材の効果を明らかにすることは、私にとって貴重な経験です。

私が学んでいる看護学以外に社会福祉や経済の授業も受けることができ、異なる専門領域の先生との交流を通して物事の見方や考え方が広がりました。また、一緒にオンライン授業を受けている研究科のクラスメートや先輩、留学生との会話は、情報の収集と語学力の向上に役立っています。充実した学術環境の中で、さまざまな人たちとコミュニケーションを取りながら多くのことを学び、研究を行えるのは県大の魅力です。このようなすばらしい環境の中で一緒に研究を行い、専門知識を深めていきましょう。

社会福祉学専攻

Major in Social Welfare Science

詳細は
ホームページへ



尊厳ある生のために

- 社会福祉学専攻は、北陸で最初に開設された福祉系大学院です。
- 毎年行われる研究報告ワークショップや中間発表会で研究のブラッシュアップを図ります。
- 修了生は、福祉・保健・医療・教育・司法・労働等の多方面の分野で全国的に活躍しています。

取得できる学位 ▶ 修士（社会福祉学）

■教育目標

- ▶個人と社会のウェルビーイングを高めるための社会福祉実践・社会福祉政策の価値を探究する能力を養成する。
- ▶自由・平等・友愛の民主主義思想と共生の理念に基づいた研究能力を養成する。
- ▶複雑・複合化した生活課題の解決のための多角的視点での社会福祉学研究を行う能力を養成する。
- ▶個々人の生活の質の向上と社会の健全な発展に寄与する研究能力を養成する。
- ▶多様で複雑化した個別ニーズに対応できる実践能力を養成する。
- ▶地域における共生社会の発展に資する実践能力を養成する。



■カリキュラム

▷ 共通科目

精神健康学特論	看護・福祉研究方法論
環境保健学特論	コミュニケーション特論

▷ 専攻科目

社会福祉学特論	社会福祉援助特論（集団）	精神保健学特論	権利擁護特論	福祉教育特論
社会福祉学演習	社会福祉援助演習（集団）	精神保健学演習	権利擁護演習	修士論文指導
社会政策特論	社会福祉援助特論（地域）	児童・家庭福祉特論	国際福祉特論	
社会政策演習	社会福祉援助演習（地域）	児童・家庭福祉演習	国際福祉演習	
社会保障特論	社会調査特論	高齢者福祉特論	医療人類学特論	
社会保障演習	社会調査演習	高齢者福祉演習	医療人類学演習	
社会福祉援助特論（個別）	精神保健福祉特論	障害者福祉特論	社会福祉管理・経営特論	
社会福祉援助演習（個別）	精神保健福祉演習	障害者福祉演習	学校ソーシャルワーク特論	

▷ 経済・経営学研究科の授業科目

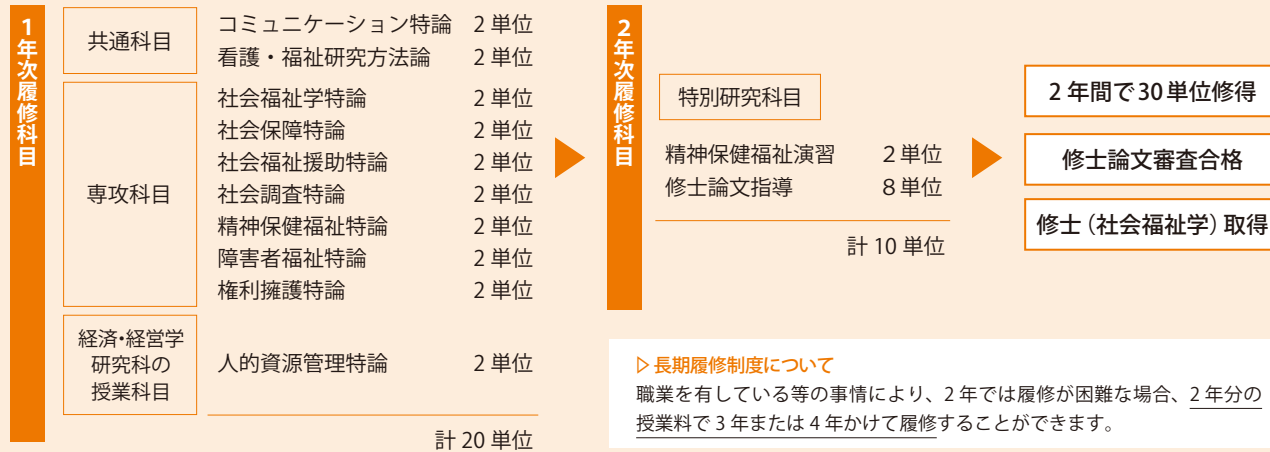
経済理論	ワークショップ（地方行政論）	人的資源管理特論
日本経済史特論	現代企業論	

※ 2025 年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。

受験を検討されている方への
お願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。
▶ ✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp
研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

社会福祉学専攻の履修モデル ※精神保健福祉を選択した場合



▷ 長期履修制度について
職業を有している等の事情により、2 年では履修が困難な場合、2 年分の授業料で 3 年または 4 年かけて履修することができます。

修士論文タイトル（2019 年度～ 2024 年度）

- 健康行動をおこしにくい障害者の健康支援に関する研究－相談支援専門員の実践を通して－
- 当事者の視点から見る相談支援事業の役割と体制の研究
- 支援会議の効果的な運用に関する一考察～多職種連携・協働による「よりよい支援」を提供するために～
- 介護保険制度に対する当事者参画に関する一考察－認知症の人と家族の会の提言・要望を通して－
- 知的障害者がグループホームから一人暮らし等に移行するまでの意思決定支援のあり方に関する研究
- スクールソーシャルワーカーの有機的連携に関する一考察－学校内居場所カフェの現状と課題－
- 社会福祉協会における発展・強化計画策定プロセスへの参画の効果と課題の一考察
- ハンセン病者へのキリスト教伝道－療養所教会の成り立ちと長島聖書学舎を中心に－
- 保育所において医療的ケア児に保育を提供するためのプロセスに関する研究
- 不妊夫婦の家族形成－産婦人科医の取組む「新生児特別養子縁組」を中心として－
- ルドルフ・シュタイナーの理論と実践についての一考察
- 小児がん罹患児への病棟での遊びを用いた精神的なアプローチ実践
- 聖バルミナ・ミッションの衰退と解散に関する研究

社会福祉学専攻

研究紹介



梅谷 進康 教授

高齢者・家族等への ソーシャルワーク、 地域包括ケアの研究

私の研究テーマは高齢者や家族等へのソーシャルワークで、キーワードは高齢者福祉、ソーシャルワーク、地域包括ケアシステムです。

現在は生活支援コーディネーターの活動や、生活支援・介護予防に係るボランティアを中心に研究を行っています。また、就労的活動支援コーディネーターにも関心があります。

私が研究目的を設定する際は、現在の社会福祉課題やこれから必要になると考えられる社会福祉支援に関して、自治体の委員を務めているなかで着想を得る場合が多々あり、実用的な知見の獲得を目指す研究が多くなっています。

これまでの研究は修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチなどによる質的研究、郵送法やインターネットを用いたアンケートによる量的調査で主に行ってきました。私の書籍や論文、社会貢献活動などの一覧は、research map に記載しています。

社会福祉学専攻

在学生インタビュー



藪根 田美子 さん

社会福祉士（認定社会福祉士）

在宅介護の経験を活かして 地域包括ケアシステムをよりよくしたい

私は社会福祉協議会を定年退職後に日本福祉大学に進学しました。卒業時に大学院進学のお誘いを受けましたが、その時は家庭の事情で進学が難しかったため「いつか分からないが大学院を受験します」とお答えて別れました。

その後家族ががんになり、10 年間に在宅にて多機能型施設を利用しながら看取りました。その間の在宅での介護や看取り等、当事者として経験したことによる気づき等を踏まえ、今後の自分自身を含めた地域包括ケアシステムがよりよい方向に進展していけるようにと福井県立大学大学院に進学し、「本人主体の包括的支援体制による地域づくり」をテーマに研究しています。

福井県立大学は、1992 年に開学し、約 30 年、教育、研究、そして地域貢献に邁進してこられたことを以前からお聞きしており、在学してさらに思いを新たにいたしました。先生方からも個人の力量に応じた配慮や対応をしていただき感謝しております。

健康生活科学専攻

Major in Health and Human Life Sciences

詳細は
ホームページへ



設置の趣旨

社会の多様化、人口減少、超少子高齢化において、人々は様々な健康上の課題や生活上の課題に直面し、個人・世帯レベルから家族・自治体、国・都道府県レベルまでの対策が求められています。本研究科は、看護学と社会福祉学が融合し、健康から生活までの課題に対して領域横断的に「健康生活科学」研究を行い、「ウェル・ビーイング（健康と幸福）」に向けた共生社会」を目指すために設置されました。

健康生活科学研究科で養成する人材

- ▶健康から生活までの多様な課題を包括的に探究できる自律的・国際的な研究者
- ▶基盤となる専門的知識・技術と高い見識を兼ね備え、地域にも貢献できる大学教員や行政担当者

取得できる学位 ▶ 博士（健康生活科学）

■カリキュラム

▷ 共通科目

健康生活科学特論 研究倫理特論

▷ 専攻科目

健康基礎科学領域	健康生活探究領域
健康科学特論	健康福祉学特論
看護実践開発演習	保健医療福祉演習
健康バイオマーカー演習	地域包括ケア演習

▷ 特別研究科目（博士論文指導）

健康基礎科学特別研究 健康生活探究特別研究

※ 2025 年度カリキュラム。科目は変更となる場合があります。

健康生活科学研究科 特別講義



医療人類学

- ・ Anticipation in Health and Illness
- ・ The Ethnography of Central Asia, Japan, and the US



知的財産とデータサイエンス

- ・ 研究者として知っておきたい知的財産の基礎知識
- ・ 看護学・社会福祉学分野の現状
- ・ 「地域健康学」の目指すものー地域保健とデータサイエンス



倫理・安全

- ・ 臨床倫理について
- ・ 遺伝倫理について
- ・ 誰のための医療安全かー心理的安全性のある職場



看護理論

- ・ 状況特定理論

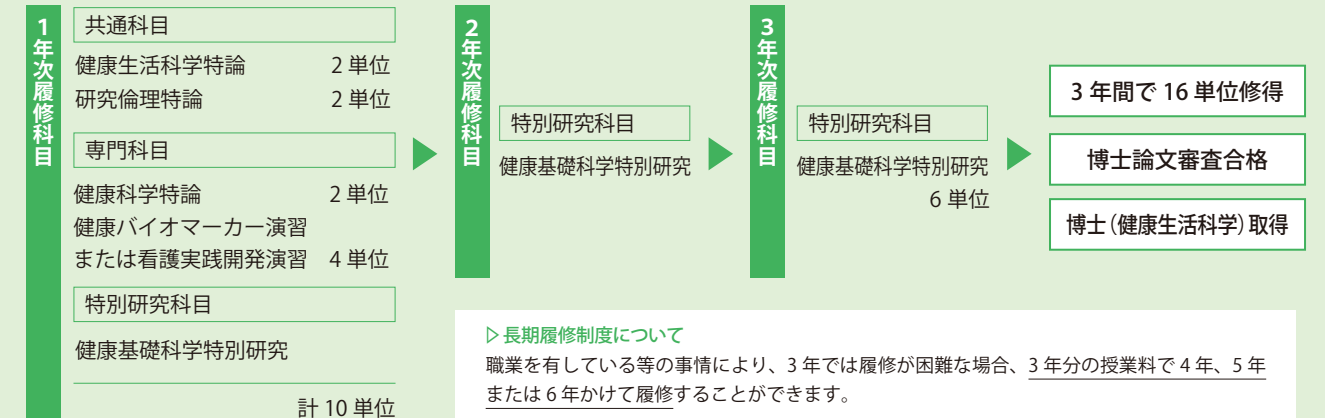
受験を検討されている方への
お願い

出願にあたっては、事前に担当事務へメールでご連絡ください。

▶ ✉ kyoiku-n@fpu.ac.jp

研究計画等について、担当教員との事前面談をさせていただきます。

健康生活科学専攻の履修モデル



健康生活科学専攻 研究紹介



川村 みどり 教授

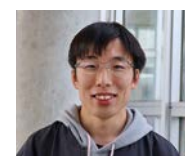
精神疾患やその可能性、
精神障害がある人の
地域生活に関するケア

精神保健福祉医療に関するテーマの中で、精神疾患やその可能性があっても地域での生活が当たり前になるケアについて研究をしています。この研究領域は、医療と福祉が重なり合います。

厚生労働省は、2006 年度の医療法改正の際、地域医療の基本方針として医療計画での重点対策となる疾病をあげました。疾病とは、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4つで、その後、2011 年に精神疾患が加わり5つになりました。これらの疾病は、患者数が多く、国を挙げて緊急に対策を講じる必要があります。きめ細やかな対応が必要な病気であるとされています。

精神疾患からの回復には、障害支援がセットとなります。地域医療の基本方針では精神疾患をひとくくりにしていますが、診断名は多彩であり、当事者の困り事も様々です。当事者はもちろん、家族や一般の方と協力して、健康と幸福について熟考してくださる皆様をお待ちしています。

健康生活科学専攻 在学生インタビュー



須磨 航 さん

スクールソーシャルワーカー
一般社団法人みんなの居場所 with ふくい代表理事

こども・若者を地域で支えるために

私は、大学卒業後、福井県内のスクールソーシャルワーカーとして、また、こども・若者の居場所活動を行う NPO 団体のソーシャルワーカーとして、不登校やヤングケアラー等、様々な生きづらさを抱えるこども・若者たちの相談援助や、高校内で「居場所カフェ」を創る実践を広げています。これらの実践から、ミクロレベルではこども・若者を支えることができつつある一方、実践知や経験知ではなく、チーム学校体制の構築や、地域と学校とがより深く繋がることの必要性を、研究を通して言語化したいと思い、本学修士課程社会福祉学専攻修了後に健康生活科学研究科への進学を決めました。

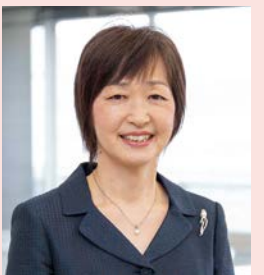
健康生活科学研究科は、社会福祉学と看護学が融合した研究科であり、社会福祉の視点のみではなく、メンタルヘルスや地域包括ケアシステム等、より広範な学びを得ることができます。こども・若者を取り巻く環境が複雑化する中、ここでの学びが今後のこども・若者を地域で支えるための貴重な時間であると考えています。

研究科長からのメッセージ

看護・福祉の未来を拓く学びの場

「看護福祉学研究科（修士課程）」は、看護学専攻と社会福祉学専攻を有し、高度専門職や教育者のリーダー育成を目指しています。専門分野を越えて学べる柔軟なカリキュラムを採用し、VR（バーチャルリアリティ）などの DX 技術や他分野との融合研究も推進しています。

「健康生活科学研究科（博士後期課程）」は 2023 年 4 月に開設され、看護学と社会福祉学を統合した「健康生活科学」という新たな学問領域を探究しています。福井県内で初の看護系博士後期課程であり、「Well-being（健康と幸福）」に向けた共生社会」をテーマに研究と研究者育成を進めています。多様な専門分野の教員がそろい、国際的な研究も展開しています。両研究科とも、Web 遠隔授業・研究指導を導入し、社会人でも学びやすい環境を整えています。ぜひ一緒に学び、研究を深めましょう。



看護福祉学研究科長
健康生活科学研究科長

笠井 恭子 博士（看護学）

看護福祉学研究科

看護学専攻（修士課程）

各教員の研究者情報は
researchmap をご覧ください。
(教員名を入力して検索)



健康科学・基礎看護学領域	基礎看護学	かさ い きょう こ 笠井 恭子 研究科長／教授	自律神経や睡眠を整えるケアの開発に関する研究
		おお しま ち か 大島 千佳 教授	看護技術のエビデンス探求（リンパ浮腫ケア、睡眠を整えるケア）
	公衆衛生学・疫学	ひら い たか よし 平井 一芳 教授	地域や職域をフィールドとした予防医学、健康科学に関する調査研究
	内分泌学・生殖科学	みず たに てつ や 水谷 哲也 教授	卵巣や胎盤の機能調節メカニズムに関する研究
	薬理学・食品機能学	むら かも しげる 村上 茂 特命教授	農産物や海藻など食素材の健康長寿との関連研究、タウリンの生理・薬理作用の解明
	認知症・神経難病・老化	よね だ まこと 米田 誠 特命教授	ミトコンドリアと活性酸素の側面からの生理・病態の解析
成人看護学領域	基礎看護学	あずま とも ひろ 東 知宏 准教授	感染管理、特に手指衛生に関する研究
		くま がい きょう こ 熊谷あゆ美 准教授	周術期患者の創傷予防ケアに関する研究
		く め まさ よ 久米 真代 教授	身体疾患をもつ認知症高齢者の看護ケアに関する研究
		いわ たに く み こ 岩谷久美子 教授	母性看護や助産の安全管理に関する研究や教育に関する研究

小児看護学領域	小児看護学	かね かす ひと み 金粕 仁美 准教授	妊娠期から育児期の母親のメンタルヘルス、ボンディング障害に関する研究
精神看護学領域	精神看護学	かわ むら 川村みどり 教授	ライフサイクルに合わせた精神保健ケアの探求（思春期の若者、地域で暮らす精神障害者）
		は せ がわ こ ま こ 長谷川小真子 准教授	精神科看護師のフィジカルアセスメント能力向上に関する研究
地域・在宅看護学領域	地域・在宅看護学	ふ しょう さ なえ 普照 早苗 教授	訪問看護を中心とした退院支援、家族看護、看護教育に関する研究
		うめ づ ち か こ 梅津千香子 准教授	在宅療養移行支援、意思決定支援、エンドオブライフケア、医療介護連携に関する研究
	医療福祉学	なり た みつ え 成田 光江 准教授	要支援者・児や家族、多様な支援者を支える地域包括支援に関する研究
公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護学	こ じま あ み 小島 亜未 教授	地域住民のウェルビーイングの向上を目指した健康行動変容アプローチ方略に関する研究
看護マネジメント学領域		かさ い きょう こ 笠井 恭子 研究科長／教授	※健康科学・基礎看護学領域に掲載
		ひら い たか よし 平井 一芳 教授	
		うえ き れい こ 上木 礼子 准教授	

※看護マネジメント学領域の指導教員は、院生の研究テーマを考慮し、看護学専攻の教員の中から決定することができます。

社会福祉学専攻（修士課程）

ソーシャルワーク	いま い とも み 今井 朋美 教授	若年性認知症やHIVなど制度の狭間にある福祉ニーズにおける援助モデルについての検討
高齢者福祉	うめ たに のぶ やす 梅谷 進康 教授	高齢者・家族等へのソーシャルワーク、地域包括ケアシステムに関する研究
精神保健福祉 ソーシャルワーク	おか だ たか し 岡田 隆志 教授	自治体における精神保健福祉施策・活動、ソーシャルワーカーの現任教育に関する研究
地域福祉論、福祉計画論	さ の おさむ 佐野 治 教授	福祉行政計画（および社協計画）の立案と策定、CSWの理論と実践手法に関する研究
社会政策、非正規雇用、ジェンダー	た なか ゆ み こ 田中裕美子 教授	労働市場におけるパートタイム労働を中心とした既婚女性の就業選択に関する研究
保健・福祉研究方法論	のり き さ こん 法木 左近 特命教授	真菌症の診断に関する研究、オートプシーイメージング（Ai）に関する研究
医療人類学、ヘルス・コミュニケーション、質的研究法	みち のぶ りょう こ 道信 良子 教授	子どもの意思決定、保健・医療・福祉分野のエスノグラフィに関する研究

権利擁護と民法総則、成年後見制度	やま ぐち り え こ 山口理恵子 教授	日常生活自立支援事業や成年後見制度を中心に判断能力が不十分な人々の支援に関する研究
児童・家庭福祉	よし ひろ じゅんいち 吉弘 淳一 教授	子どもを取り巻く環境からの視点で子どもの理解に関する研究
社会保障・生活保護	さか ぐち まさ ひろ 坂口 昌宏 准教授	地域共生社会を実現するための社会福祉法制度の構築に向けた研究
地域福祉	なが い ゆう こ 永井 裕子 准教授	地域づくり実践における住民の主体形成に関する研究
社会福祉史	はたけ なか こう 畠中 耕 准教授	近代日本における地域の社会福祉の歴史を研究
ソーシャルワーク	ふな き しん すけ 舟木 紳介 准教授	外国人定住支援におけるデジタルメディアの活用に関する研究

健康生活科学研究科

健康生活科学専攻（博士後期課程）

各教員の研究者情報は
researchmap をご覧ください。
(教員名を入力して検索)



健康基礎科学特別研究

かさ い きょう こ
笠井 恭子
研究科長

- 自律神経や睡眠を整えるケアの開発に関する研究

おおしま ちか
大島 千佳

- 睡眠改善ケアのエビデンス探求
- 睡眠環境に関する研究
- 腸内環境に関する研究

かわむら
川村みどり

- 知識とスティグマの関連に配慮した精神保健ケア
- 精神障害リハビリテーションに関する看護ケア
- 精神障害をもつ人の回復を支える多職種の連携

のり き さこん
法木 左近

- 白癬の診断
- 検体採取のための新しい機器の開発
- 患者自身による白癬検査の問題点

みず たに てつ や
水谷 哲也

- 胎盤の分化調節メカニズムの解明
- 産科疾患に対する新たなバイオマーカーの開発

むら かみ しげる
村上 茂

- 農産物や海藻など食素材の健康長寿との関連研究
- タウリンの生理・薬理作用の解明

よね だ まこと
米田 誠

- 老化・疾病・フレイルなどにおける活性酸素のかかわりを評価する
- 甲状腺疾患における精神神経症状について解析する

くま がい み
熊谷あゆ美

- 創傷の発生と皮膚軟部組織に加わる外力や応力との関係に関する基礎研究
- 創傷予防のためのマットレスの開発研究

健康生活探究特別研究

おか だ たかし
岡田 隆志

- 精神障害者の地域生活支援に関する研究
- 地方自治体における精神保健福祉施策に関する研究
- ソーシャルワーカーの現任教育に関する研究

くめ まさよ
久米 真代

- 認知症高齢者の入院・入所による環境変化への適応を促進する看護研究
- 身体疾患の治療中の認知症高齢者の苦痛緩和に関する看護研究

たなか ゆみこ
田中裕美子

- 雇用問題をめぐる社会政策に関する研究
- パートタイム労働・生活時間とジェンダーに関する研究
- 既婚女性の就業選択に関する研究

ひら い たかよし
平井 一芳

- 地域高齢者のフレイルとその関連要因（運動、栄養、社会活動など）
- 小学生の身体活動と健康・体力
- 職域におけるメタボリックシンドローム対策

みちのぶ りょうこ
道信 良子

- 小児がんの子ども医療における意思決定
- 児童文学を用いた評価研究
- 健康とウェルビーイングの医療人類学

授業担当

こじま あみ
小島 亜未

- 地域包括ケア演習

うめづ ちかこ
梅津千香子

- 地域包括ケア演習

さかぐち まさひろ
坂口 昌宏

- 保健医療福祉演習
- 地域包括ケア演習

ふじ の ひでのり
藤野 秀則

学内兼任（経済・経営学研究科教授）

- 健康科学特論

やまうち とよあき
山内 豊明

学外兼任（放送大学大学院教授）

- 看護実践開発演習

お問合せ



公立大学法人

福井県立大学

Fukui Prefectural University

福井県立大学 教育・学生支援部 教育推進課

TEL 0776-61-6000(代) FAX 0776-61-6012

E-mail: kyouiku@fpu.ac.jp URL https://www.fpu.ac.jp/